

## 北九州市立食肉センターの今後のあり方の検討について

### 1 北九州市立食肉センターの今後のあり方検討会の開催

食肉センターは、と畜場法に基づき、食用に供する目的で獣畜をとさつ・解体するための施設として1988年（昭和63年）に設置し、北九州都市圏の食肉供給基地として、市民に安全で安心な食肉を供給してきた。

しかしながら、開設から35年経過した施設は老朽化が進んでおり、平成25～27年度に大規模改修工事を行ったものの、機械設備の突発的な故障や不具合等が多発している。

このような状況の中、更なる設備投資を行うためには、食肉センターを取り巻く現状を改めて認識し、市民の皆様から理解が得られる、今後を見据えた施設のマネジメントが必要である。

については、この検討を進めるにあたり、食肉センターを利用する食肉事業者等の当事者からだけでなく、客観的な意見を踏まえることが重要なため、外部有識者による検討会を開催するもの。

### 2 検討会の構成員

7ページのとおり。

### 3 検討会のスケジュール（予定）

6～8月に全3回で開催予定。

第1回	➢食肉センターを取り巻く現状と課題について 施設見学、施設概要、施設運営に係る収支構造 など
第2回	➢食肉センターの役割について ➢食肉センターの将来における運営パターンについて
第3回	➢食肉センターの今後の方向性について

### 4 検討会の結果報告等

- (1) 検討会の開催結果については、後日あらためて常任委員会で報告予定。
- (2) 検討会の意見等を踏まえ、食肉センターを利用する食肉事業者と引き続き協議を重ね、今後のあり方について適切に判断してまいりたい。

## 北九州市立食肉センター 概要

### 施設の概要

所在地	北九州市小倉北区末広二丁目3番7号			
施設名称	北九州市立食肉センター			
設置者	北九州市長			
開設年月	昭和63年7月			
敷地面積	12,252㎡（空地部を含む、20,616㎡）			
床面積	8,032㎡（鉄筋コンクリート3階建）			
と畜能力	牛:100頭/日、豚:600頭/日（その他:馬、子牛、山羊、羊）			
冷蔵能力	牛:300頭(枝肉600本)、豚:900頭(枝肉1,800本)			
予算	(参考)令和6年度 食肉センター特別会計予算 <span style="float: right;">(単位:千円)</span>			
	(歳入)		(歳出)	
	○使用料及び手数料	154,552	○食肉センター費	361,800
	○財産収入	586	(管理費、繰出金)	
	○繰入金	177,532	○予備費	200
	○繰越金	10		
	○諸収入	29,320		
	歳入総計	362,000	歳出総計	362,000



出典：国土地理院ウェブサイト

# 北九州市立食肉センターの運営形態等

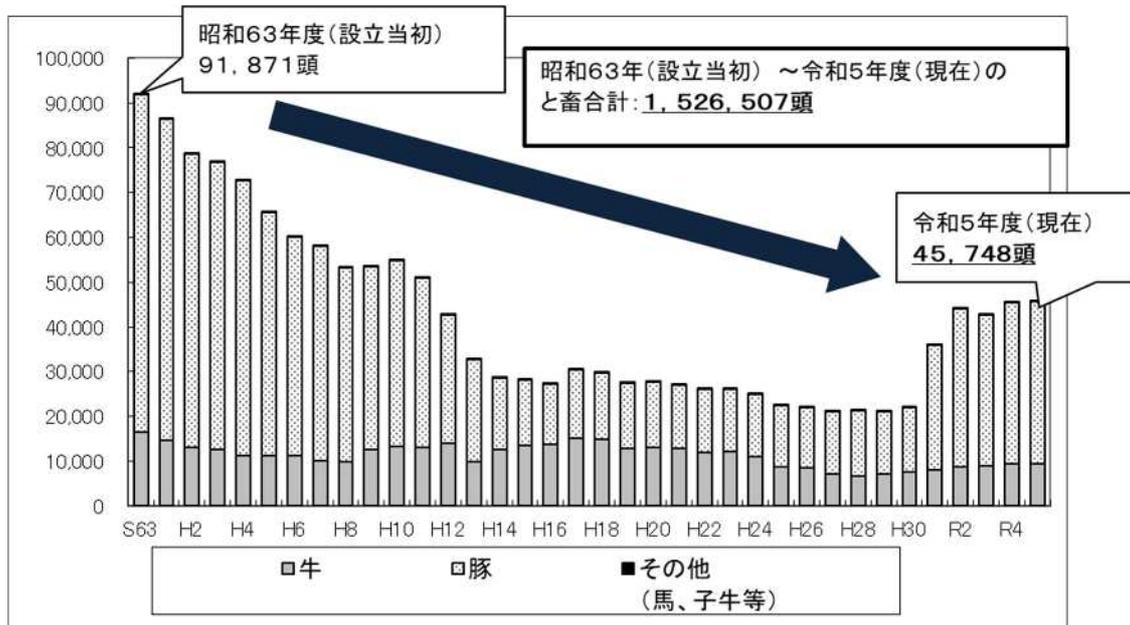
## 1 施設の運営形態

- (1)施設の設置、整備及び運営は北九州市が実施しており、施設利用業者に対し、条例に基づき食肉センター使用料及び冷蔵庫使用料を徴収している。また、と畜検査員（行政獣医）による食肉の衛生検査を実施している。
- (2)と畜解体作業は、食肉センター内に事務所を置く「北九州食肉センター企業組合」が、利用業者から解体手数料を徴収し請け負っている。
- (3)また、2004 年度(平成16年度)に市が敷地内に設置した部分肉加工所は、利用業者が中心となって設立した「北九州ミートセンター株式会社」に賃貸し、経営を同社が行っている。
- (4)その他、利用業者から手数料を得て内臓の処理を行う内臓処理業者や、牛の皮を利用業者から買い上げて処理する事業者等、と畜場事業に派生する副産物等に係る事業者が食肉センター内に存在する。

## 2 施設の特徴

北九州市立食肉センターは、市場機能を持たないと畜場である。自らの流通ルートをもつ食肉事業者が、農家や家畜市場等で集めた家畜を持ち込み、と畜解体し、市場を介さず食肉を販売することができるという特徴を持った施設である。家畜の生産者が生体を搬入し、と畜後に枝肉を上場する枝肉市場併設のと畜場とは機能が異なる。

## 3 と畜頭数の推移



## 食肉センターの老朽化度調査及び今後の整備に係る 基本調査等の結果について（令和3年度）

### 1 概要

施設の構造・機械設備等の老朽化度の診断、現行施設の長寿命化、施設を建替える場合の方法や費用の試算を実施したものの。

### 2 老朽化度診断の結果

- 構造物は、継続的に保守点検を行うことにより、あと50年以上使用が可能。
- 機器等の設備の多くは、耐用年数を過ぎているため、早い時期の対処が必要。



### 3 現施設設備を長寿命化する場合の改修費用

24億9,178万円	工場棟の改修、必要な機械設備等をすべて更新
------------	-----------------------

### 4 現施設を建替える場合の費用

※施設の規模 と畜頭数\*：牛50頭/日、豚500頭/日      \*国補助金の取得条件

《パターン①》 センターの空きスペースに現行施設と同型施設を建設する場合

72億1,812万円	現敷地内での施設建替え（現施設解体含む）、機械設備等の更新
------------	-------------------------------

《主な利点》・既存施設を稼働しながら建設が可能なこと。

《主な課題》・2階建て構造により、リフト等の設備面の故障リスクなど、管理運営上の問題がある。  
・平屋構造に比べ、修繕費や電気等のランニングコストが大きい。

《パターン②》 新たな用地に新施設を整備する場合

86億8,605万円	現施設の解体及び新たな用地で施設を整備、ただし土地の取得費用は含まれない
------------	--------------------------------------

《主な利点》・施設内の動線、搬出入の関係、ランニングコスト面から理想的。

《主な課題》・広大な用地の確保が必要（21,000平方メートル）。

※なお、建替えを行う場合は、新施設が稼働するまでの5年間に、上記更新費用とは別に8,114万円の改修費が必要となる。

# 北九州市立食肉センターの現状等分析及び将来の展望等の コンサルティング業務委託報告書 概要（令和4年度）

## 1 目的

食肉センターに関する再整備の検討の基礎資料とするため、現状等の分析と新設する場合の各スキーム(公設公営、公設民営、PFI-BTO方式、完全民営化)における分析を行う。

## 2 食肉センターの現状分析

将来性	①人口減少により国内の食肉需要の減少が見込まれること、②九州北部エリアは強力なブランド力を有していないため、国外需要である輸出市場の拡大は難しいことから、 <u>将来性に大きな期待はできない。</u>
公共性	①北九州市内に養豚農家はなく、牛の生産農家も少ないこと、②食肉センターを經由した食肉の市内最終消費流通額割合は約17.7%との推計であること、③施設使用が <u>特定事業者に限定されることから、公共性は低い。</u>
公益性	施設使用が、特定事業者に集中しており、 <u>行政における他サービスと比較すると公益性が低い。</u>
採算性	食肉センターのバリューチェーンは「と畜」のみであり、「センター使用料」と「処理コスト」が見合っておらず、 <u>公的な資金の投入を前提としている。</u>

## 3 各スキームにおける経営を一体化した場合のシミュレーション結果

新設において、全ての経営(と畜場の運営、牛部分肉加工、豚部分肉加工、もつ販売、と畜解体)を一体化した場合、最も好条件で年間利益は0.83億円となるが、得られた利益を投資しても年間収支がプラスになるスキームはなかった。

## 4 食肉センター新設における総合評価

公設民営 (施設貸与型)	市は運営の収支に関与せず、民間事業者は施設貸与額を支払うことになるため、運営収支がプラスにならないと想定されるが、最も年間利益がプラスとなる場合でも、 <u>年間収支は1.0億円のマイナスとなり、実現性は低い。</u>
PFI-BTO方式	市が民間企業にサービス対価を支払うこととなるが、経営を一体化し、最も年間利益がプラスとなる場合で、 <u>すべての利益を設備投資の返済に充てたととしても、市は2.5億円/年の財政負担が必要。</u>
完全民営化	市としては最も望ましい運営方式であるが、最も好条件でも年間収支はマイナスとなり、 <u>設備投資の回収ができない等の問題から、実現は困難。</u>



※上記を参考にさらなる検討が必要。

## 北九州市立市政変革アクションプラン【令和6年度】

21	食肉センター		
1.政策の内容	食用に供する目的で獣畜(牛、馬、豚、めん羊及び山羊)をとさつ・解体するために設置された施設(と畜場)を管理運営し、消費者に安全で衛生的な食肉を提供するためのと畜検査を行う。		
2.基本的な考え方	①施設の老朽化、利用状況及び経営状況並びに流通等の社会経済情勢の変化等を勘案し、食肉センターの今後のあり方を検討する。		
3.主な関連事業	A 食肉センター維持補修費 B 食肉衛生検査所事務費 C 食肉センター管理費		
担当課	保健福祉局保健衛生課、食肉センター		
KPIの例	施設運営にかかる財政負担の抑制	現状値(R4)	目標値(R6)
		114,951千円	114,951千円以下
令和6年度	令和7年度	令和8年度	
現状把握・分析	見直し結果を反映した事業の執行		
今後のあり方の検討			

## 北九州市立食肉センターの今後のあり方検討会

### 構成員（案）

属 性	氏 名	肩 書
学識経験者	甲斐 諭	元 中村学園大学 学長
学識経験者	横山 麻季子	北九州市立大学法学部准教授
弁護士	吉武 みゆき	北九州第一法律事務所
公認会計士	小竹 エリナ	アネーラ税理士法人 公認会計士
業界有識者	山下 克之	公益社団法人 福岡県畜産協会 専務理事
業界有識者	西田 博幸	株式会社 食肉通信社 九州支局